

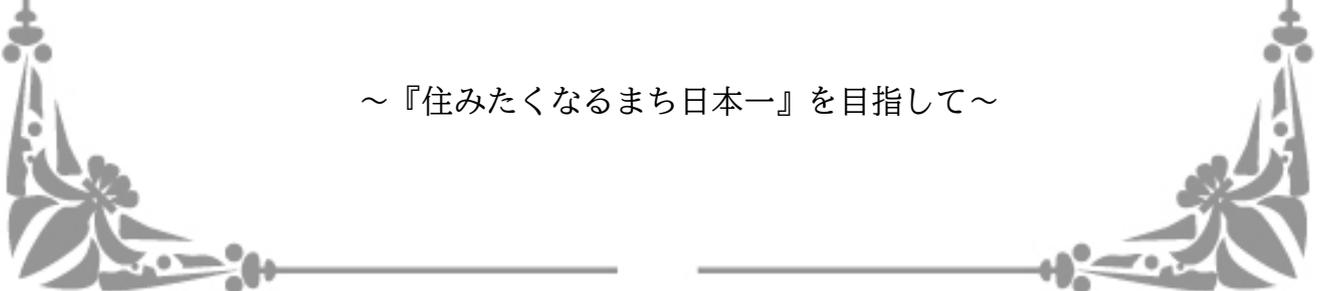
令和6年第4回富谷市議会定例会

市長挨拶

令和6年11月29日

富谷市長 若生 裕俊

～『住みたくなるまち日本一』を目指して～



1. はじめに

本日ここに、令和6年第4回富谷市議会定例会が開会されるにあたり、開会の挨拶に併せ、富谷市総合計画に掲げた、まちづくりの将来像「住みたくなるまち日本一」の実現に向けた現在の取組概要について、ご説明申し上げます。

議会の皆様には、日ごろより市勢発展のため、ご尽力いただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

はじめに、各民間調査機関発表の自治体評価ランキングについて申し上げます。

11月13日に大東建託株式会社が発表した「街の幸福度&住み続けたい街ランキング2024」において、「住み続けたい街」で4年連続東北第1位、「街の幸福度」では3年連続県内第1位、東北では初の第1位となりました。居住者満足度調査において高い評価をいただいたことに、大変うれしく思っております。

引き続き、本市の将来像「住みたくなるまち日本一」を目指して、まちづくりに取り組んでまいります。

次に、市民図書館、児童屋内遊戯施設、スイーツステーション、そして成田公民館を融合した新しい複合施設の整備については、令和7年度末の完成を目指して順調に工事が進捗しております。

8月には、この新しい複合施設の愛称及び正式名称を公募し、市内外から愛称914件、正式名称522件の応募をいただきました。愛称及び正式名称選定委員会において協議した結果、愛称は「ユートミヤ」、正式名称は「富谷市複合図書館」を選定いたしました。今後は、市民の皆様にご親しんでいただけるよう周知を図るとともに、幼児から高齢者までの幅広い世代で活用できる複合施設となるよう努めてまいります。

つきましては、本定例会の補正予算に関連経費を計上しておりますので、ご審議の程、よろしくお願いいたします。

次に、産学官の連携プロジェクトについて申し上げます。

本市と世界最大級の総合コンサルティング会社のアクセンチュア株式会社、東北大学、宮城大学、株式会社ミヤックスの5者、そしてアドバイザーに宮城県

を迎え、デジタルの活用により、産業の振興、人材育成、地域の活性化、定住人口の増加等につながる取組を実施する産学官の新たな団体「とみや つなぎ つながれ みちのく協議会（略称：T3 みちのく協議会）」を、11月25日に設立いたしました。

本協議会は、本市を実証フィールドに、各構成員の有するデジタル技術やノウハウ、学術的な知見などを生かし、立地企業のデジタル化促進やデジタルと地域の教育資源を最大限に活用した人材育成、地域データの活用によるコミュニティの活性化を推進することにより、企業及び人口の集積を加速させて、「100年間ひとが増え続けるまち富谷」の実現と、富谷・黒川地域の更なる発展を目指すものです。

また、協議会の活動及び実績を積極的に発信することにより、東北地方はもとより日本全国へ、「産業も暮らしもデジタルで豊かなまち・とみや」の成功モデルを広げてまいります。

次に、エネルギー・食料品価格等の物価高騰への市の取組について申し上げます。

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を財源として、新たに令和6年度住民税非課税または住民税均等割のみ課税となった世帯に対し、1世帯あたり10万円を支給し、さらに対象世帯のうち、18歳以下の子どもがいる世帯には児童一人あたり5万円を支給する「令和6年度住民税非課税世帯物価高騰対策支援事業」及び「令和6年度住民税均等割のみ課税世帯物価高騰対策支援事業」については、申請期間を1か月延長して受付を行い、申請のあった非課税世帯383世帯、均等割のみ課税世帯269世帯へ今月に振込が完了しております。

今後も、国や県と連携を図りながら、物価高騰に対する市民の負担軽減に取り組んでまいります。

2. 「基本方針－1 暮らしを自慢できるまち」について

それでは、富谷市総合計画の4つの基本方針と後期基本計画の体系に基づき、各種施策の実施状況について申し上げます。

まず、「基本方針－1 暮らしを自慢できるまち」に関する主な施策について申し上げます。

(1) 商工業・雇用関連施策について

はじめに、商工業・雇用関連施策について申し上げます。

企業誘致関連については、すでにご承知のとおり、大衡村への進出を予定しておりました台湾の大手半導体企業の工場建設が白紙となりました。本市といたしましても、関連企業・サプライヤーの進出、従業員等関係者の住居需要等、地域経済の波及効果を期待していたところであり、残念な結果となりました。

しかしながら、本市では、大衡村への工場建設発表以前から、半導体関連企業をはじめとする製造業を中心とした企業集積を図るため、成田二期北工業用地の整備を宮城県と緊密に連携して進めてきたものであり、引き続き、県や関係機関との連携を図りながら、企業誘致に向けた取組を鋭意進めてまいります。

雇用関連施策については、11月14日に黒川高等学校を会場に、高校生の地元企業への就業意欲を高めることを目的とした「黒川地域産業説明会」を開催いたしました。当日は、富谷・黒川地域に立地する企業35社が、自社の製品や仕事内容をPRしました。中小企業の人材確保が大きな課題となっている中、今後の人材の確保・育成に向けた取組となったところです。

(2) 起業支援関連施策について

次に、起業支援関連施策について申し上げます。

起業塾「富谷塾」については、7期目となる今年度は、現在218名の塾生が入塾し、とみふら及び荷宿を拠点に起業創業・スタートアップに向けた取組のほか、9月からは起業・創業プログラムを開始し、個々のレベルに応じた支援を進めております。

また、来年1月には、昨年引き続き、スタートアップ都市推進協議会主催の「ジャパンスタータアップセレクション」が東京で開催されます。今年度も起業プログラム等を通じて選定した3名が参加し、事業のPRを行うこととなっております。

今後も各種プログラムなどを通して、塾生の今後のビジネス創出や事業成長に向けた多様な支援を展開してまいります。

(3) 農業関連施策について

次に農業関連施策について申し上げます。

水稲については、東北農政局公表の今年の作柄の良し悪しを示す作況指数は、

10月25日現在、県内全域で「107の良」と発表がありました。新みやぎ農協の米買取状況による令和6年産米の本市の1等米比率は、10月25日現在で昨年度より約1パーセント増の約86パーセントとなっており、米の生育や収穫高の状況を示す作柄は「やや良」となっている状況です。

米価の概算金では、「ひとめぼれ」で1万5,900円となり、回復している状況にあります。

しかしながら、依然として原油高騰や資材高騰は、農業経営に大きな負担となっておりますので、本市独自の支援を実施してまいります。

また、米の生産については、引き続き、農協推奨ブランド米である「特別栽培米」を主とした環境にやさしい安全安心な米づくりを推進するとともに、主食用米に代わる転換作物等への作付け及び農地管理に対する本市独自の支援について、新みやぎ農協と連携を図りながら継続して取り組んでまいります。

農作物有害鳥獣対策については、イノシシ対策として実施している物理柵の設置について、新たに2地区で総延長6.6キロメートルの設置を進めております。引き続き、地域への侵入防止及び農作物の被害拡大防止対策を支援してまいります。

(4) 観光・地域振興施策について

次に、観光・地域振興関連施策について申し上げます。

「富谷宿街道まつり」については、富谷宿観光交流ステーション・とみやどをメイン会場として10月6日に開催いたしました。パレードやステージイベントに加え、今年度は新たにラジオの生放送を実施いたしました。

また、賑わいのエリアを集中させ、通りには門や灯籠、お休み処などを設置することにより、宿場町の風情を演出いたしました。

当日は、時おり小雨が降る天候でしたが、約2万3千人の方にご来場いただきました。

とみやどについては、街道まつり当日に合わせて、古民家に新テナントとして、「しんまちキッチン By ジーバーFOOD」がオープンいたしました。地元の高齢者の皆さんが愛情をこめた料理を提供する食堂ですので、議会の皆様もお誘い合わせの上、ぜひお越しいただければと思います。

なお、本市では、しんまちキッチンで運営のノウハウを提供する株式会社ジーバー、富谷市シルバー人材センター、株式会社 1038 との 4 者によるシニア活躍におけるパートナー協定を締結いたしました。今後は、4 者の連携によるシニア世代の活躍と生きがいづくりとなる場の創出と支援を行ってまいります。

また、10 月 19 日には、とみやどの来場者数が 60 万人を達成いたしました。これまで市内外から多くの皆様にお越しいただき、心より感謝申し上げます。今後も定例イベントをはじめ、季節に合わせたさまざまなイベントなどを開催し、さらに多くの皆様にご来場いただけるよう努めてまいります。

発酵のまちづくりについては、在来の味噌、醤油などの復活に向け、他自治体の事例を参考にしながら、取組を進めているところです。先日、本市が加盟している全国発酵のまちづくりネットワーク協議会の総会が千葉県香取市で開催され、来年度の「全国発酵食品サミット」の本市での開催が正式に決定いたしました。先人が営んでいた発酵文化の継承とともに、本市における新たな発酵のまちづくりに向けて、取組を進めてまいりたいと考えております。

(5) 道路関連施策について

次に、道路関連施策について申し上げます。

新田橋橋台保護護岸補修工事については、関係機関との協議が整い、10 月に工事に着手いたしました。

また、令和 5 年度からの繰越事業である市道穀田三ノ関線道路改良工事については、三ノ関側の終点部分における倉庫等支障物件の解体撤去が 9 月末に完了し、10 月より本線部分の工事を再開いたしました。引き続き、年度末までの開通に向け鋭意取り組んでまいります。

(6) 土地利用関連施策について

次に、土地利用関連施策について申し上げます。

仙塩広域都市計画第 8 回定期見直しについては、成田二期北地区における、市街化区域編入に関する都市計画の変更案に関する説明会を 11 月 8 日に宮城県と合同で開催いたしました。引き続き、令和 7 年 5 月の市街化区域編入に向けて手続きを進めてまいります。

また、成田二期北地区へのアクセス道路となる都市計画道路七北田西成田線

の延伸工事については、県に委託して順調に工事が進捗しており、令和7年8月に予定している土地区画整理事業の造成工事の着手時期に合わせ、引き続き整備の進捗を図ってまいります。

(7) 住宅・公園・上下水道関連施策について

次に、住宅・公園・上下水道関連施策について申し上げます。

富谷市営墓地については、第2期整備工事が11月上旬に完了し、10月1日から1か月間募集を行った結果、一般墓地16件、芝生墓地56件、個別埋蔵墓地10件の申し込みがございました。空き区画に関しましては、今後随時募集を行ってまいります。

大亀山森林公園については、例年、冬期間は閉鎖としておりましたが、今年度は、12月から3月の期間においても、活性化業務を委託したNPO法人SCRが主体となり、毎月1回のイベント開催と土曜日から月曜日まで「もしもしカフェ」を開店いたします。今後も引き続き、観光資源としての新たな魅力創出に取り組んでまいります。

水道事業については、衛星を活用した水道管路の漏水調査業務において、衛星画像データの解析が完了し、漏水可能性エリアの二次調査の実施に向け、発注の準備を進めております。引き続き、漏水の削減と有収率の向上を図り、健全で安定的な水道事業の経営に努めてまいります。

下水道事業については、国の交付金を活用したマンホールポンプ施設の改築更新工事や管渠の修繕・改築計画策定業務等が順調に進捗しており、引き続き、下水道施設の適切な維持管理と長寿命化に努めてまいります。

3. 「基本方針－2 教育と子育て環境を誇るまち」について

続きまして、「基本方針－2 教育と子育て環境を誇るまち」に関する主な施策について申し上げます。

(1) 教育・青少年健全育成関連施策について

はじめに、教育・青少年健全育成関連施策について申し上げます。

第13回目を迎える「学校図書館を使った調べる学習コンクール」については、

市内小中学校から昨年を上回る 1,634 点もの素晴らしい作品の応募がありました。10月30日に最終審査を行い、全国コンクールに出品する市長賞を含む計25作品を選定したところでございます。

引き続き、日常的な調べる学習の充実を図りながら、自ら知る喜びや学ぶ楽しさを実感できる機会を提供し、これからの社会に求められる探究的な学びの質の向上を図ってまいります。

(2) 教育・国際交流関連施策について

次に、教育・国際交流関連施策について申し上げます。

台風の影響により行程が大幅に変更となりました中学生海外研修派遣事業については、10月30日に報告会を実施いたしました。多くの議員の皆様にもご参会いただき、ありがとうございました。台湾での貴重な体験を通して、異文化への理解や、英語、コミュニケーション力の重要性など、多くの学びや気づきを得た生徒たちの成長が実感できる機会となりました。

今後も引き続き、将来の富谷を担うグローバル人材の育成に努めてまいります。

次に、富谷幼稚園の民営化については、昨年9月の議員全員協議会において、令和8年度末に富谷幼稚園を閉園し、令和10年度から民間による認定こども園として開園する方針をご説明申し上げていたところでございます。

来年度に事業者選定を実施するにあたり、幼稚園敷地面積確定のための分筆等を行う必要があることから、本定例会の補正予算に関連経費を計上しておりますので、ご審議の程、よろしく願いいたします。

(3) 生涯学習関連施策について

次に、生涯学習関連施策について申し上げます。

公民館については、各公民館が工夫を凝らした公民館まつりを開催し、公民館サークルや多くの地域の皆様にご参加いただき、盛会裏に終えることができました。当日は、議員の皆様にもお越しいただき、感謝を申し上げます。

(4) スポーツ・レクリエーション関連施策について

次に、スポーツ・レクリエーション関連施策について申し上げます。

本市とパラスポーツ振興に関する連携協定を結んでおります一般社団法人宮

城県障害者スポーツ協会との共催により、11月15日に富谷第二中学校の1年生を対象にパラスポーツの講義・体験会を実施いたしました。

プログラムは視覚障害を体験する内容で、ブラインドサッカーの体験では、目が見えない状態で音を聴くことや、声を出して仲間を支えること等、コミュニケーションの大切さを学びました。

また、来年2月2日には、本市と宮城県障害者スポーツ協会、スポーツ協定を結ぶ株式会社ベガルタ仙台と連携して、パラスポーツ運動会 in 富谷を開催することとしております。障害の枠を超えて健常者も広く参加できるインクルーシブスポーツとして推進し、市民の皆様のスポーツに対する機運醸成を図ってまいります。

今後も引き続き、障害者のスポーツ活動への支援・交流の場づくりなど、パラスポーツの振興を通じて、活力ある共生社会の実現を推進してまいります。

(5) 芸術・文化関連施策について

次に芸術・文化関連施策について申し上げます。

11月23日に開催いたしました、「2024 とみやマーチングフェスティバル」については、とみやマーチングエコーズや市内小学校金管バンド、鼓響とおのみや太鼓のほか、招待団体として、全日本マーチングコンテスト全国大会常連の聖ウルスラ学院英智高等学校吹奏楽部の皆さんにもご出演いただきました。当日は、午前と午後を合わせて約1,200名の皆さんにご観覧いただく中、出場団体の迫力ある素晴らしい演奏・演技が披露され、盛大に開催することができました。

また、11月2日、3日に開催されたマーチングバンド・バトントワーリング東北大会では、一般の部でとみやマーチングエコーズが27年連続28回目、小学生の部で、富ヶ丘小学校が9年連続9回目、成田東小学校が2年連続10回目の全国大会出場を決めました。全国大会は12月14日、15日に、さいたまスーパーアリーナで開催され、「音楽のまち マーチングのまち とみや」を代表し、全国の観衆を魅了する発表となるよう、ご期待申し上げますとともに、今後も支援を継続してまいります。

つきましては、本定例会の補正予算に関連経費を計上しておりますので、ご審議の程、よろしく願います。

(6) 子育て関連施策について

次に、子育て関連施策について申し上げます。

「富谷市第三期子ども・子育て支援事業計画」については、本市のこども施策を総合的かつ強力に展開するため、こども基本法に基づく「市町村こども計画」として一体的に策定することといたしました。現在、富谷市子ども・子育て会議においてご意見をいただきながら、本年度内の策定に向け、取りまとめを行っているところです。

放課後児童クラブについては、東向陽台小学校放課後児童クラブの新築工事が、令和7年2月末の完成に向けて順調に進捗しております。現在使用しているプレハブ棟は、完成したクラブ棟での児童の受け入れを行う4月以降に解体する計画としております。

また、成田小学校放課後児童クラブについては、現在、増築に向けた設計業務を進めております。令和7年度に増築工事を行い、令和8年度から使用できるよう鋭意取り組んでまいります。

児童手当については、本年10月分から所得制限の撤廃や18歳年度末までの支給延長など抜本的に拡充され、12月6日に拡充後初めての支給を行う予定となっております。本市においては、対象者が4,813名、支給総額は2億1,399万5千円となっております。

子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)については、9月24日から26日にかけて中国山東省 ^{さいなんし} 濟南市において開催された、「ユニセフ第二回東アジア・太平洋地域子どもにやさしいまち会議」に本市が日本を代表して招待され、私が参加してまいりました。

当日は、本市の取組を発表するとともに、4か国の代表者と「子どもの参加」について積極的な意見交換を行いました。各国それぞれの置かれている状況や歴史的背景は違えども、子どもの権利を守る取組姿勢は共通であり、各国参加者の熱意あるディスカッションに感銘を受けたところです。

また、10月には東京都が主催する、子どもシンポジウム「ティーンズ・スクエア」に国内先進都市として、札幌市・千葉市と並び、本市の子どもたち6名が参加いたしました。

参加した子どもたちは、生徒会サミットや富谷ユネスコ協会のジュニア部・青年部の活動などで得た経験と、自らが活動している内容を発表し、他の都市の子どもたちからは、非常に高い評価をいただきました。発表を通じて、子どもたち

自身が自分の権利を知ることで、相手の権利も大切に考えられるように成長している姿を見て、私自身も感動し、目頭が熱くなりました。これまでの市の取組と子どもたち自身の権利の学びの両輪により、心身共に健やかなそだちに寄与しているものと感じております。

今後も、子どもにやさしいまちづくりを本市の最重要施策に位置付け、さらに推進してまいります。

3. 「基本方針－3 元気と温かい心で支えるまち」について

続きまして、「基本方針－3 元気と温かい心で支えるまち」に関する主な施策について申し上げます。

(1) 高齢者支援関連施策について

はじめに、高齢者支援関連施策について申し上げます。

認知症対策については、普及啓発事業の一環として、富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センターを中心に、9月14日に映画「オレンジ・ランプ」の上映会を行いました。当日は、150名の方々にご参加いただき、認知症の理解促進に努めたところです。

また、10月20日には、地域の皆様のご参加をいただきながら、本市初の取組として行方不明高齢者の搜索模擬訓練を実施いたしました。当日は、QRコード付シールを活用した「認知症高齢者等見守り支援事業」の普及啓発や、警察への通報訓練を行うなど、行方不明時のいち早い発見に向けて、日ごろから地域で見守り合う意識を醸成する大変有意義な機会となりました。

今後も市民の皆様が認知症を我がこととして捉え、地域全体で見守り、支え合うことができる「まちづくり」を目指し、施策を推進してまいります。

(2) 健康・保健関連施策について

次に、健康・保健関連施策について申し上げます。

健康づくりの推進については、日々の健康維持に向けたきっかけづくりとして、しんまち地区を会場とし、「謎解き ウォークラリー」を実施いたしました。

また、11月にはオーラルケアをテーマとした「とみや市民公開講座」、及び生活習慣病予防の啓発を目的とした産官学医連携事業「塩エコキャンペーン」を開催したところです。

引き続き、イオン富谷店に設置されている東北大学病院サテライト「まちかど健康ラボ」の利用促進なども図りながら、市民の健康維持・増進を目的とした事業を積極的に実施してまいります。

高齢者の感染症対策については、インフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスワクチンの定期接種について、10月1日から実施しております。接種を希望される方が安心して接種できるよう、引き続き環境整備に努めるとともに、全般的な感染症対策についても、感染動向を踏まえ、取り組んでまいります。

(3) 医療関連施策について

次に、医療関連施策について申し上げます。

宮城県が推進する仙台医療圏4病院の再編については、東北労災病院と宮城県立精神医療センターの移転・合築に関して、先に開会した宮城県議会において、村井知事から、精神医療センターについては、施設老朽化の状況や患者等の意見を踏まえ、名取市内で建て替える方向で検討を進める旨の方針が示されたところです。

一方で、労働者健康安全機構との間で、引き続き、救急医療や災害医療などの政策医療の課題解決に向け、東北労災病院の富谷市への移転に関する協議を継続するとともに、県北部の精神疾患患者への対応など、「にも包括」体制の構築に向けた連携についても検討する旨の方針も併せて示されました。

本市としても、富谷・黒川地域における救急医療体制の強化、急性期医療の整備を図るため、引き続き、県と連携を図りながら、東北労災病院の誘致実現に向け取り組んでまいります。

健康保険証とマイナンバーカードの一体化については、12月2日以降の保険証新規交付廃止に伴い混乱が生じないように、広報とみや12月号において記事を掲載するほか、引き続き丁寧な対応に努めてまいります。

(4) 障がい者支援関連施策について

次に、障がい者支援関連施策について申し上げます。

精神障害者地域生活支援事業については、全世帯を対象に「ひきこもりに関する生活状況アンケート調査」を実施し、33.4パーセントにあたる6,886世帯から回答を得ました。集計の速報値といたしましては、世帯の中にひきこもり状態

にある方がいるとして回答されたのは226名で、年代別にみると、20代と30代の割合がそれぞれ21.7パーセントで最も高い状況となっております。今後は、年明けに提出される調査結果報告書を詳細に分析し、関係機関とも情報を共有しながら、本市のひきこもり対策・支援に取り組んでまいります。

また、「地域活動支援センター」の指定管理者の指定について、本定例会へ上程しておりますので、ご審議の程、よろしくお願いいたします。

4. 「基本方針－4 市民の思いを協働でつくるまち」について

続きまして、「基本方針－4 市民の思いを協働でつくるまち」に関する主な施策について申し上げます。

(1) 防災・救急・消防関連施策について

はじめに、防災・救急・消防関連施策について申し上げます。

防災関連については、今年度の富谷市総合防災訓練を10月27日に日吉台中学校を会場として予定しておりましたが、衆議院議員総選挙の日程と重なったことから、日吉台中学校を利用した訓練については来年度へ順延することといたしました。

今年度は11月10日に日程の変更、規模を縮小して各町内会と公民館との無線通信訓練のみを実施いたしました。

来年2月8日には宮城県、石巻市、富谷・黒川地区4市町村合同により、原子力防災訓練の一環として、女川原発周辺の住民避難訓練の実施を予定しております。

消防関連については、11月9日から15日までの「秋の火災予防運動」に伴い、11月10日に開始式を行い、消防団においては、期間中に広報・警鐘巡回活動を行うなど、火災予防に努めてまいりました。これから空気が乾燥する時季となりますので、消防署・消防団等と連携しながら、火災予防を一層啓発してまいります。

(2) 防犯・交通安全・消費者保護関連施策について

次に、防犯・交通安全・消費者保護関連施策について申し上げます。

交通安全関連については、11月7日をもって交通死亡事故ゼロ500日を達成いたしました。これから本格的な冬を迎え、路面凍結・積雪の時季となってまい

りますので、今後も引き続き、交通死亡事故ゼロの継続に向け、皆様方のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(3) 省エネルギー・自然エネルギー関連施策について

次に、省エネルギー・自然エネルギー関連施策について申し上げます。

10月6日に開催した富谷宿街道まつりでは、富谷市少年少女発明クラブと連携して、水素エネルギーの啓発ブースを出展いたしました。実験キットを活用するなど、当日は多くの子どもたちが参加し、水素を活用したエネルギー利用に触れる機会を提供することができました。

今後も、本市が進めるゼロカーボン施策に関する理解促進と普及啓発に努めるとともに、市民の地球温暖化への関心を高め、二酸化炭素削減につながる取組を進めてまいります。

(4) 市民参加・協働関連施策について

次に、市民参加・協働関連施策について申し上げます。

11月20日に実施した、「とみやわくわく子どもミーティング」については、「子どもにやさしいまちづくりについて ～私たちが考える とみやの未来～」をテーマに、市内8小学校の5、6年生16名の皆さんが三つのグループで意見交換し、それぞれのグループから様々なアイデアや意見を発表いただき、大変有意義なミーティングとなりました。

このミーティングについては、昨年に引き続き富谷高校の生徒の皆さんにご協力いただけたことで、グループの円滑な話し合いにつながりました。

今後も子どもにやさしいまちづくりの推進に向けて、子どもの視点や意見を大事にしてまいります。

次回の「とみやわくわくミーティング」は、「若者にとっての選挙」をテーマに、来年1月下旬に開催いたします。

また、11月28日に「町内会交流会」を開催し、「町内会は地域のわ(和・輪)～私たちの暮らしを「わ」でつなぐ～」をテーマに、町内会運営に携わる方45名にご参加いただきました。

全国的にも役員の高齢化や担い手不足等の課題を抱える町内会に対し、新たな参加を呼び込むための工夫を先進事例から学ぶとともに、グループワークでの情報交換やチラシ作りの実践を通して、意見交流が行われました。

引き続き皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、更なる町内会の活性化を支援していけるよう取り組んでまいります。

12月19日には、市役所職員及び市議会議員を対象とした性的マイノリティに関する理解増進を図る研修会を実施いたします。

職員自らが学びを深め、性的指向・性自認に関わらず、だれもが安心して住み続けることができる地域づくりを推進してまいります。

(5) 多文化共生・国際交流施策について

次に、多文化共生・国際交流施策について申し上げます。

11月9日に、本市における多文化共生の初の取組となる「多文化共生フォーラム」を、県との共催により開催いたしました。議員の皆様にも多くのご参加をいただき、改めまして感謝申し上げます。

本フォーラムは、企業誘致などにより、今後本市に住む外国人の方の増加が見込まれることから、市民の皆様にも多文化共生を知っていただくきっかけとして、基調講演とトークセッションの2部構成で実施したものです。

トークセッションでは、本市にゆかりのある台湾出身のお二方にご参加いただき、日本に住んで困ったことや外国人にどのような支援が必要か、外国人が暮らしやすい地域にするにはどうしたらいいかなど、多くのことをお話しいただき、参加された方からも「大変良い取組でした」との感想が寄せられたところです。

外国人の方からも、「住みよいまち、働きやすいまち」と思っていただけのように、今後も多文化共生に取り組んでまいります。

以上、令和6年第4回富谷市議会定例会の開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。